

札幌市立平和小学校の取組

1. 研究のねらい

- ・ N D C（日本十進分類法）や本の目次を用いて、平和に関する図書を探したり、借りたりすることができる。
- ・ 図書に書かれてある資料の内容を要約し、平和についての自分の意見に根拠をもつことができる。

2. 取組内容

(1) 学校図書館を利用した事前学習

① キーワードを基に図書を探す

平和についての意見文を書くことを目標とし、6年国語「平和について考える」の単元の学習を行った。初めに「平和」という言葉から感じるイメージを考えた。その後「平和とは、戦争のないことだ。」「誰もが平等に扱われ、楽しく生きることが平和なことである。」など、自分が考える「平和」についての意見を交流した。

交流後、自分の意見を確かなものにするためには、資料が必要であることを確かめた。

学校の図書館を利用し、「戦争」「国際関係」「人権」「自然環境」など自分が意見文を書くにあたって、キーワードとなる言葉を中心に図書を探した。しかし、学校図書館の図書の冊数や種類に限りがあること、学校にある図書以外のものも探してみたいという思いが児童に芽生えたことにより、中央図書館にある図書を使って学習したいという気持ちがよりいっそう高まった。

② N D C や本の目次を用いて図書を探す

本校の児童は3年生から図書館利用指導の学習をしており、自分に必要な図書を効率良く探すためには、N D C や本の目次を使うと良いことを知っている。そのため今回は、自分にとって必要な図書がN D C のどの番号に当てはまるのかを確かめる学習を行った。

(2) 中央図書館での学習

① 自分に必要な図書を探して借りる

中央図書館では、司書さんの説明によりN D C の使い方を今一度確かめることができた。また図書館内での過ごし方についてもお話しいただき、校区に図書館のない本校の児童にとっては、公共の施設でのマナーを考える機会となった。

今回は、「こどもの森」を利用させていただいた。本棚やラベルの番号を確認したり、図書の目次を見て、内容を短時間で確かめたりすることで、一人一人がたくさんある図書の中から効率的に必要な図書を見付け出すことができた。司書さんが質問に快く応じてくれたこともあり、児童は安心して図書を探し、借りることができた。

② 図書から必要な情報を取り出す

図書館3階の机のある控室を開放していただき、借りた児童から控室で図書を読ん

だり、必要な情報を抜き取ってメモしたりした。

(3) 事後学習

本を1週間借りることができたため、学校に持ち帰り、必要な情報を抜き取りながら、自分が考える平和についての意見文を書き始めた。平和についての最初の曖昧なイメージとは異なり、自分の意見を裏付ける根拠として、本に書かれてある言葉や統計を用い、説得力のある文を書くことができた。

3. 成果と課題

(1) 成果

本校の児童は公共の図書館を利用したことのない子が多いが、ほとんどの子がNDCや図書の目次からおおまかな内容をつかみ、必要な図書を借りることができた。公共施設内で自ら学習を進めることができたことは大きな自信につながった。「探していた本が見付かった。」「色々な種類の本があって驚いた。」などの言葉も聞かれ、学校での学習に限らず、この先自分で学びを深めていく際に公共の図書館を利用することができると感じることができただろう。



今回の国語の単元は「平和」に関する資料が必要となった。一人一冊図書を用いるためには、学校図書館の本では冊数、種類共に限りがある。児童は中央図書館という大きな図書館を利用できたことで、豊富な図書の中から納得のいくものを選ぶことができた。

・児童の意見文（途中省略部分あり）

「わたしが考える平和とは家族と一緒に暮らせることだと思う。よく考えると自分の一番身近にいる人は家族だし、家族と一緒に暮らせて育ててもらえることがやっぱり平和だと思う。わたしは図書館に行き、資料を見て、家族と一緒に暮らせなくてさみしい子や、いつも一人ぼっちな悲しい子どもたちがこの世界中にたくさんいることがわかった。戦争で家族が殺されたり、親とはなればなれになって困っていてもだれも助けてくれない国もあったりすることがわかって、とてもかわいそうだった。（省略）中には、家族と一緒にいていやな思いをする人もいるだろう。しかし、親や家族がきちんと育ててくれたり、ちゃんと自分の子どもを愛してくれたりしたら、その子は大人になって人の優しさがわかり、強い心をもつ。（省略）家族と暮らすとけんかしていやなこともあると思うけれど、困った時に支え合えるから平和とは、家族と一緒に暮らせることだと思う。」

(2) 課題

今回はテーマを絞って本を探す活動を行ったため、自分にとって必要な本がある本棚に長時間いることとなった。しかし、膨大な図書のある中央図書館での学習だからこそ、様々な本棚を見て歩き、たくさんのジャンルの本を手にする機会も大切だと思った。異なる単元での学習であれば、児童は中央図書館の魅力を更に感じるものと考えている。